

事業所名

ディスカバリースポーツ

支援プログラム

作成日

2025 年 3 月 7 日

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| 法人（事業所）理念 | ひとりひとりが陽の当たるステージを獲得するために、好き・得意を伸ばし、自信と自立につなげる。幼児から大人まで一貫した本人主体の支援を行う。 | | |
| 支援方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通して筋力の強化と精神面の安定を図り、社会性（チームワーク、協調性、統率力、ルールを守る、自己発信、意思疎通）を育む。 ・保護者や関係機関と相談連携をする。 | | |
| 営業時間 | 9 時 30 分から 18 時 30 分まで | 送迎実施の有無 | あり なし |
| 支 援 内 容 | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して姿勢や動作の身体機能の向上に加え、野外活動や公園、グラウンド遊びなどエネルギーを発散する環境で、ストレス発散やメンタル面の健康維持に繋げる。 ・野外活動での農作物づくりを通して、食への興味関心を促し、苦手なものへのチャレンジや偏食の克服などの食育をおこなう。 ・学校・居宅等と事業所間の移動について、自立に向けて、1人での通所ができるよう計画的な支援を行う。 ・挨拶、入室時の手洗い、荷物の整理整頓、身辺を清潔に整えるなど、基本的な生活スキルの習得をサポートする。 | |
| | 運動・感覚 | <ul style="list-style-type: none"> ・「視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚」の5つの感覚に加え、前庭覚と固有受容覚を合わせた感覚統合運動で、感覚の特性や偏りを緩和するよう支援する。 ・動作から、感覚の過敏鈍麻を見分け、ひとりひとりの適性プログラムをもとに、感覚の特性や偏りの緩和・成長へ繋げる。 ・小学体育で行われるマット運動、鉄棒、跳び箱、短距離走、縄跳び、ボール運動を丁寧なサポートでとり組み、成功体験や探究心を積み重ねながら、苦手意識克服や自己肯定感向上に繋げる。 ・タイマーやスケジュール表を用いて、時間の概念形成に繋げる。 ・下記 ①～⑦の感覚運動で、さまざまな感覚から認知機能を高め、特性や偏りを緩和する動きかけのなかで、バランスよく統合させる力や日常的に感じる刺激にうまく対応する力を育む。 ①ビジョントレーニング（ボール運動、スピードシステム）で、ワーキングメモリーの向上に繋げる。 ②ボディトレーニング（マット運動、ごころ遊び）で、姿勢保持、他者との距離感、物の適正なとりあつかい、空間認知能力の向上に繋げる。 ③バランス運動（バランスボール運動、壁のぼり）で、姿勢保持、バランス感覚、目の動き（文字の読み取り）の向上に繋げる。 ④ゴルフプログラムで、距離感や力加減、集中力を育む。 ⑤目隠し運動（目隠し鬼ごっこ、サイレントゲーム）で、姿勢保持、空間認知能力、集中力の向上に繋げる。 ⑥リズム運動（ダンス）で、体幹力、リズム感覚、バランス感覚、表現力の向上に繋げる。 ⑦野外活動（外遊び、クッキング）で、五感（見る・聴く・触る・嗅ぐ・味わう）を研ぎ澄まし、そこから得た情報や状況を整理・理解する力の向上に繋げる。 | |
| | 認知・行動 | <ul style="list-style-type: none"> ・当日のスケジュールやプログラム内容の掲示を行い、見通しを立てた支援を行う。 ・異なるルールを理解し取り組むことや、場面で変化する状況に瞬時に対応することで、外部環境の適切な認知や行動、判断の習得に繋げる。 ・各種の運動・動作が困難、不得意な場合、スモールステップ、モディフィケーション、補助的手段を活用しながら支援を行う。 ・運動後に計算や漢字練習を行い、ワーキングメモリーの向上に繋げる。 | |
| | 言語コミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・チームと連携を図る中で、声掛けや表情、身振りを用いて意思のやりとりを行い、相手または自分の気持ちや考えを理解し伝えるなど、受容と表出することができるよう支援を行う。 ・運動を通して、良い精神状態を形成し、話し合いや声掛け、活動の振り返りで主体的な発言を促し、相手に伝わる言語を身につけり支援をする。 ・思いを言葉で表現しにくい場合には、ホワイトボードなどを活用して表現できる方法を模索し支援する。 ・ダンスプログラムで表現力・想像力を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。 | |
| | 人間関係社会性 | <ul style="list-style-type: none"> ・自身の得意、不得意や役割を明確にし、自己の特徴を理解するとともに、気持ちや情動のコントロールができるよう支援する。 ・小学1年生から高校3年生までが活動するグラウンド運動では、集団に参加するための手順やルール、役割分担を理解し、集団活動に参加できるよう支援する。 ・チーム運動を通して相互理解し認め合いながら、仲間づくりに繋がるよう支援する。 | |
| 家族支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様の子育てに関する困りごとに対して、協働して対応策を考える。 ・本人の発達状況や特性理解に向けた相談援助を実施する。 ・保護者会など、保護者交流の機会を提供する。 | 移行支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・本人が地域の様々な場面で適切な支援を受けられるように、関係機関との連携を図り、ネットワークの構築を行う。 ・他のこども施設との併行利用や移行に向けた支援する。 ・併行利用先や学校等と連携を図り、障害特性に応じた一貫した支援を実施するための情報共有や協議を行う。 ・進学等のライフスタイルの変化を見据えた準備をご家族と協働して行う。 |
| 地域支援・地域連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援センターや医療機関等、本人の支援に関わる保健・医療・福祉・教育・労働等の関係機関と連携する。 ・併行利用先や学校等と連携を図り、障害特性に応じた一貫した支援を実施するための協議や助言を行う。 | 職員の質の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・国が定めた義務化研修（感染症対策研修、児童虐待防止・身体拘束適正化研修等）を実施し、職員の質の向上に努める。 ・社内研修を実施し、障害特性への理解を深めると共に、障害特性に応じたより良い対応方法を習得する。 ・必要に応じて職員を外部研修に派遣し、更なるスキルアップを目指す。 |
| 主な行事等 | 保護者会、親子フェスティバル、クリスマス会、夏の川遊び、秋の芋掘り、野外活動 | | |